

学校生活管理指導表 (小学生用)

氏名 _____ 男・女 平成 年 月 日生()才 _____ 小学校 年 組

| | | | |
|-----------|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| ①診断名(所見名) | ②指導区分 要管理: A・B・C・D・E 管理不要 | ③運動クラブ活動 ()クラブ 可(ただし、)・禁 | ④次回受診 ()年()ヵ月後 または異常があるとき |
|-----------|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|

医療機関 _____
医 師 _____ 印

【指導区分:A・・・在宅医療・入院が必要 B・・・登校はできるが運動は不可 C・・・軽い運動は可 D・・・中等度の運動まで可 E・・・強い運動も可】

| 体育活動 | | 運動強度 | | 軽い運動 (C・D・Eは “可”) | 中等度の運動 (D・Eは “可”) | 強い運動 (Eのみ “可”) |
|------------------------|----------------------------|--|----------------------------------|---|---|---|
| 運 動 領 域 等 | * 体 つ くり 運 動 | 体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動遊び | 1・2年生 | 体のバランスをとる運動遊び (寝転ぶ、起きる、座る、立つなどの動きで構成される遊びなど) | 用具を操作する運動遊び (用具を持つ、降ろす、回す、転がす、くぐるなどの動きで構成される遊びなど) | 体を移動する運動遊び (這う、走る、跳ぶ、はねるなどの動きで構成される遊び) |
| | | 体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動 | 3・4年生 | 体のバランスをとる運動 (寝転ぶ、起きる、座る、立つ、ケンケンなどの動きで構成される運動など) | 用具を操作する運動 (用具をつかむ、持つ、回す、降ろす、なわなどの動きで構成される遊びなど) | 力試しの運動(人を押す、引く動きや力比べをする動きで構成される運動)基本的な動きを組み合わせる運動 |
| | | 体ほぐしの運動 体力を高める運動 | 5・6年生 | 体の柔らかさを高める運動(ストレッチングを含む)、軽いウォーキング | 巧みな動きを高めるための運動 (リズムに合わせての運動、ボール・輪・棒を使った運動) | 時間やコースを決めて行う全身運動 (短なわ、長なわ跳び、持久走) |
| | 陸 上 運 動 系 | 走・跳の運動遊び | 1・2年生 | いろいろな歩き方、ゴム跳び遊び | ケンパー跳び遊び | 全力でのかけっこ、折り返しリレー遊び 低い障害物を用いてのリレー遊び |
| | | 走・跳の運動 | 3・4年生 | ウォーキング、軽い立ち幅跳び | ゆっくりとしたジョギング、軽いジャンプ動作(幅跳び・高跳び) | 全力でのかけっこ、周回リレー、小型ハードル走 短い助走での幅跳び及び高跳び |
| | | 陸上運動 | 5・6年生 | | | 全力での短距離走、ハードル走 助走をした走り幅跳び、助走をした走り高跳び |
| | ボ ー ル 運 動 系 | ゲーム、ボールゲーム・鬼遊び(低学年) ゴール型・ネット型・ベースボール型ゲーム(中学年) | 1・2年生 | その場でボールを投げたり、ついたり、捕ったりしながら行う当て遊び | ボールを蹴ったり止めたりして行う当て遊びや蹴り合い 陣地を取り合うなどの簡単な鬼遊び | ゲーム(試合)形式 |
| | | | 3・4年生 | 基本的な操作 (パス、キャッチ、キック、ドリブル、シュート、バッティングなど) | 簡易ゲーム (場の工夫、用具の工夫、ルールの工夫を加え、基本的操作を踏まえたゲーム) | |
| | | ボール運動 | 5・6年生 | | | |
| | 器 械 運 動 系 | 器械・器具を使つての運動遊び | 1・2年生 | ジャングルジムを使った運動遊び | 雲梯、ろく木を使った運動遊び | マット、鉄棒、跳び箱を使った運動遊び |
| | | 器械運動 マット、跳び箱、鉄棒 | 3・4年生 | 基本的な動作 マット(前転、後転、壁倒立、ブリッジなどの部分的な動作) | 基本的な技 マット(前転、後転、開脚前転・後転、壁倒立、補助倒立など) | 連続技や組合せの技 |
| | | | 5・6年生 | 跳び箱(開脚跳びなどの部分的な動作) 鉄棒(前回り下りなどの部分的な動作) | 跳び箱(短い助走での開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転など) 鉄棒(補助逆上がり、転向前下り、前方支持回転、後方支持回転など) | |
| 水 泳 系 | 水遊び | 1・2年生 | 水に慣れる遊び (水かけっこ、水につかっの電車ごっこなど) | 浮く・もぐる遊び (壁につかまっの伏し浮き、水中でのジャンケン・にらめっこなど) | 水につかっのリレー遊び、バブリング・ポビングなど | |
| | 浮く・泳ぐ運動 | 3・4年生 | 浮く運動(伏し浮き、背浮き、くらげ浮きなど) | 浮く動作(け伸びなど) | 補助具を使ったクロール、平泳ぎのストロークなど | |
| | 水泳 | 5・6年生 | 泳ぐ動作(ばた足、かえる足など) | 泳ぐ動作(連続したポビングなど) | | |
| 表 現 運 動 系 | 表現リズム遊び | 1・2年生 | まねっこ遊び(鳥、昆虫、恐竜、動物など) | まねっこ遊び(飛行機、遊園地の乗り物など) | リズム遊び(弾む、回る、ねじる、スキップなど) | |
| | 表現運動 | 3・4年生 | その場での即興表現 | 軽いリズムダンス、フォークダンス、日本の民謡の簡単なステップ | 変化のある動きをつなげた表現(ロック、サンバなど) | |
| | | 5・6年生 | | | 強い動きのある日本の民謡 | |
| 雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動 | | 雪遊び、氷上遊び | | スキー・スケートの歩行、水辺活動 | | スキー・スケートの滑走など |
| 文化的活動 | | | | 体力の必要な長時間の活動を除く文化活動 | 右の強い活動を除くほとんどの文化活動 | 体力を相当使って吹奏器(トランペット、トロンボーン、オーボエ、バスーン、ホルンなど)、リズムのかなり速い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチングバンドなど |
| 学校行事、その他の活動 | | | | ▼運動会、体育祭、球技大会、スポーツテストなどは上記の運動強度に準ずる。 ▼指導区分、“E”以外の児童の遠足、宿泊学習、修学旅行、林間学校、臨海学校などの参加について不明な場合は学校医・主治医と相談する。 ▼陸上運動系・水泳系の距離(学習指導要領参照)については、学校医・主治医と相談する。 | | |

その他注意事項

《軽い運動》 同年齢の平均的児童にとって、ほとんど息がはずまない程度の運動。

定義 《中等度の運動》 同年齢の平均的児童にとって、少し息がはずむが息苦しくない程度の運動。パートナーがいれば楽に会話ができる程度の運動。

《強い運動》 同年齢の平均的児童にとって、息がはずみ息苦しさを感ずるほどの運動。

* 体づくり運動: レジスタンス運動(等尺運動)を含む。

学校生活管理指導表について

学校生活管理指導表では、教科体育に掲げられている全運動種目を取り上げ、その種目への取組方によって強度を分類しています。

この管理指導表は、小学校と中学校・高等学校では、運動種目の呼称等が大きく異なるため、小学生用と中・高校生用に分けて作成しています。

指導区分について

A: 在宅医療・入院が必要

B: 登校はできるが運動は不可

C: 「同年齢の平均的児童生徒にとっての」軽い運動には参加可

D: 「同年齢の平均的児童生徒にとっての」中等度の運動も参加可

E: 「同年齢の平均的児童生徒にとっての」強い運動も参加可

運動部(クラブ)活動について

運動部活動は、すべての運動部に制限なく参加できる場合には、運動種目や参加内容を規定せず、単に「可」と記載します。制限がある場合には、括弧内に、参加できる活動を記入します。

注) 運動部活動欄の記入にあたって

学校差、個人差が大きいことを考えると運動の種目のみによって参加の可否を決定できませんので、それぞれの児童生徒の学校の部活動の状態を確認をして記入して下さい。

また、運動部活動は選手としての参加のほかに、記録係や強い身体活動要求されない担当部署への参加もあることを考え、CやD区分の児童生徒にも参加の機会を与えて下さい。ただし、その場合には、参加形態が条件付きであることは当然です。

その他の学校行事などについて

一覧表に例示されていない体力テストや学校行事も、右欄の運動強度の定義を参考に、同年齢の平均的児童生徒にとってその活動がどの運動強度に属する程度のものであるかを考慮して各指導区分の児童生徒の参加の可否を決定して下さい。

運動強度の定義

(1) 軽い運動

同年齢の平均的児童生徒にとって、ほとんど息がはずまない程度の運動。球技では、原則として、フットワークを伴わないもの。レジスタンス運動(等尺運動)は軽い運動には含まれない。

(2) 中等度の運動

同年齢の平均的児童生徒にとって、少し息がはずむが、息苦しくはない程度の運動。パートナーがいれば、楽に会話ができる程度の運動であり、原則として、身体の強い接触を伴わないもの。レジスタンス運動(等尺運動)は「強い運動」ほどの力を込めて行わないもの。

(3) 強い運動

同年齢の平均的児童生徒にとって、息がはずみ息苦しさを感ずるほどの運動。等尺運動の場合は、動作時に歯を食いしばったり、大きな掛け声を伴ったり、動作中や動作後に顔面の紅潮、呼吸促迫を伴うほどの運動。

注) 備考欄等の取り扱い

この表の備考欄には、それぞれの疾患や地域の状況に応じて必要と考えられる欄を設けたりすることができます。